

定期報告

2011年6月5日(日)

天候:晴れ 温度:21.5°C 湿度:53% 風:なし

放射線量:0, 10Sv/h:持参線量計 palmRAD Dosimeter Model 1621M (BNC)

食事

朝:ピザパン、フレンチトーストの豚肉挟み、おにぎり、おいなりさん、トマト、りんご、ヨーグルト

昼:幕の内弁当、いちご煮、ゼリー

氏名:西村 宜朗(薬剤師)

体調:良好

行動日誌

6:00 起床

7:00 朝食。今朝から土橋総務担当がいなかったため西村も料理に参加。

8:00 近隣の散策とミーティング。長いようであったという間に過ぎた数日間、やり残したことはないか確認。

8:40 救護所ミーティング。長い間の課題であった救急箱についての方針を決定。次回チームにも引き継ぐことを確認。

9:00 午前診療開始。

12:00 午前診療終了。

本日は3日間で一番混み合った。引き継ぎと昼食が少し遅れた。

13:00 次の支援隊に引き継ぎ。

14:00 大槌高校を出発

18:30 弘前到着

救急箱とOTCについて

課題であった撤退後のOTCの管理について、今後の方針を決めて次回派遣隊に引き継いだ。

市販薬も被災地への支援物資として贈られてきたものだが、撤退後は医師会に引き取られ、廃棄されてしまう可能性もある。小笠原医師と協議した結果、必要な人に配ることにした。

例えば、感冒で受診された患者さんに処方薬とともに市販のトローチやうがい薬、ドリンク剤をセットで差し上げた。実際は処方されなかったが、市販総合感冒薬に抗生物質の処方なども検討していた。特にドリンク剤は、被災前は常飲していたが、お金がなくて買えなかった老人も多く、涙を流して喜んでいる方もいた。

私たちが撤退した後は、第3類医薬品と部外品に関しては避難所の代表に預け、管理してもらい、第1~2類の医薬品に関しては医師会に引き取ってもらうことにした。

また、大人用オムツなども袋に手が付いているものは廃棄されてしまうため、保健師や救

護所代表と協力して配布することにした。

医療用医薬品に関して

医療用医薬品も市販薬と同様に開封されているものは廃棄される。心ある人からの支援物資が廃棄されることは悲しく、少しでも無駄を減らしたいとの小笠原医師の意向により出来るだけ救護所内処方箋で調剤・交付することにした。

私個人は、大槌高校へ医療支援チームとして入るのは3度目になった。瓦礫の撤去は随分と進んでいるが、被災者の生活状況はほとんど変わりが無い。今回の支援期間中に数百棟の仮設住宅の抽選が始まった。数週間後には240名の避難者は減っているのだろうか。仕事がなく、医療や食事が今まで無料で提供されていた住民には、仮設住宅に移ったあとの生活に問題が出てこないか不安が残る。

今回も多くの人に助けられ無事に第9次支援隊の活動を終えることができた。南部病院チームの皆さんの柔軟な対応とチームワーク、小笠原医師のリーダーシップに助けられ我々の隊は充実した支援ができた。また、町田社長をはじめとした株式会社町田アンド町田商会の皆さんの後方支援があってこそ安心して支援に集中することができた。そして、避難所の皆さんからも色々な情報を提供して頂き助けられた。本当にありがとうございました。

「我々の力は微力であるがゼロではない」(避難所にいる方からいただいた言葉)

氏名:武長 進一(薬剤師)

体調:良好

行動日誌

6:00 起床

7:00 朝食

8:00 町田ミーティング

8:40 救護所ミーティング

9:00 午前診療開始。最終日のためか患者数が多かった

12:00 午前診療終了。昼食。

13:00 次の支援隊と引き継ぎ。

14:00 大槌高校を出発

18:30 弘前到着

午前中で20名の受診があった。

これまで遠慮して受診を控えていた方もいたが、保健師さんの声掛けもあって、多くの方が受診されていた。加えて、OTCの相談もでき、他の職種の方と連携することの大切さを痛感した。

本部で後方支援をしてくださった方々やチームの仲間に感謝したい。

氏名:斎藤 武志(総務)

体調:良好

行動日誌

6:00 起床

6:30 朝食準備

7:00 朝食

8:00 町田チームミーティング

8:45 救護所ミーティング

9:30 掃除、整理整頓、引継ぎ準備

11:30 昼食準備、第10次隊到着

12:00 町田チーム第9次、10次隊、医療チーム、総勢19名で昼食

13:00 引継ぎ

14:00 大槌高校出発

18:15 弘前(本部)到着

大槌町では、クレーン車やタイヤショベルが作業している地域は限定的で、全体的には、瓦礫の撤去にはまだまだ時間がかかると思った。

これからも支援活動は必要だ。たくさんの人手と重機の出動で、一刻も早く新たな大槌町を築きあげてほしい。そして、また大槌町へ行って、皆さんとお話がしたい。

4日間を通して、人と人とのつながりの大切さと、人は一人ではない、皆が傍にいたのだということ学んだ。人との話の中には、大事な得るものがあり、その得た情報を次の人に伝えていく。そうやって人と人とは強く結びついていくことを実感した。

今回の支援に関わった皆さん、本当にありがとうございました。